

## 紙媒体の漫画のビジネス

\*総合学科3年総合ビジネス系列、\*\*商業科

### 1 背景・目的

今の時代は多くの電子漫画(コミックアプリ)が多く流通している。その中で紙媒体の漫画はどのような売り上げをしているのかが気になった。私の趣味が読書でもあるので、この探究を通してこれからも紙媒体の漫画の売り上げが少しでもあがっていくような案を出せるようにしたい。

### 2 材料及び方法

方法①:ビジネス系列内でのアンケートを実施した。

方法②:インターネットでの調査を実施した。

方法③:実際に本屋に行きインタビューをした。

### 3 結果・考察

#### 方法①の結果

アンケート結果では、

普段本屋を利用するかという問いには 8 割が利用すると回答

普段電子漫画(コミックアプリ)を使用するかという問いには5割が利用すると回答

どちらのほうか利用するかという問いには、紙媒体と電子漫画ともに5割と回答

紙媒体はこれからも残ってほしいと思うかという問いには、9割が残ってほしいと回答

#### 方法②の結果

インターネットの調査では、コミックアプリ(電子漫画)の売り上げは2014年ごろから上がってきており、紙媒体の売り上げは落ちてきている。紙媒体かコミックアプリ(電子)ではどちら派かの調査では約3割が紙媒体、約4割がコミックアプリ(電子)だと分かった。

#### 方法③の結果

谷島屋本沢合店にインタビューに行き聞いたこと

・本屋の売り上げは少し減少している。

・すべてのジャンルが減少しているわけではない。(話題の物は上がっている)

## 建築系列での学習成果

\*建築系列3年、\*\*工業科(建築系列)

### 1 背景・目的

建築系列での様々な学びを作品制作に生かすことができるかの検証・検討。

### 2 材料及び方法

作品を制作しコンペティションに応募を行った。

### 3 結果・考察

作品応募を行った結果、入賞という結果であった。

日々の建築系列での学びが、作品制作に生かすことはできているが、より良い結果を残すためには、現在よりも深い学びの定着と学んだ内容の応用が求められると考えられる。

## 地域探究Ⅰ・Ⅱの振り返り

\*総合学科3年未来創造(探究)、\*\*地域協働センター

### 1 背景・目的

未来創造(探究)系列では2年間の「地域探究Ⅰ・Ⅱ」の授業を通して、地域を題材に多岐にわたる活動を行ってきた。それらの活動を振り返ることで、それぞれの活動が天竜高校と地域の連携にどう寄与することができたのかを明らかにする。

### 2 材料及び方法

- (1)インターネット等を利用した調査活動
- (2)地域に出たの現地活動
- (3)関係者へのインタビュー

### 3 結果・考察

活動を主体として積極的に地域を対象とした探究活動をすることで、天竜高校と地域の相互理解を深めることができた。

## 【発表の部】総合学科 ⑨探究(デザイン)

### 未来創造系列 探求系デザインでの学び ～制作からの学びと成長の軌跡～

\*未来創造系列・探究系デザイン選択、\*\*芸術科(美術)

#### 1 背景・目的

デザイン系で学ぶ科目、「構成」、「素描」、「ビジュアルデザイン」の各科目を通して、2年間で個々がどのように変化したかを検証する。

#### 2 材料及び方法

各科目の成果物(制作物)から、事前事後の技術的成長や心理的变化を分析し、その学びから系列での2年間の総合的な成長を客観的に検証する。

#### 3 結果・考察

各科目、制作を通し、課題解決を繰り返す中で自己の成長を確認することができた。

## 【発表の部】総合学科 ⑩探究(家庭)

### ① 地元食材を使用した学校給食の開発

\*総合学科3年、\*\*家庭科

#### 1 背景・目的

中学校まで毎日のように食べていた給食が、どこでどうやって作られているのか気になった。給食献立開発を通して、地元食材やアレルギー、バランスの大切さ等を知ることが目的とした。

#### 2 材料及び方法

①調査:学校給食の概要、献立の立て方、味付け、歴史、安心安全について、アレルギー対応、地元食材の活用について調べた。

②給食献立開発・試作:献立テーマ「心も身体もほっかほか!～浜松の食材で栄養満点給食～」

白飯・牛乳・豚肉のピリ辛炒め、ほうれん草とちくわのおかか和え、しめじと大根の味噌汁

#### 3 結果・考察

実際に小学生の意見を聞きながら、誰もが食べたい味を考えることができた。献立を作る上で大切なことや、大変なことを実際に感じる事ができた。今後の課題として、アレルギー対応給食の開発をしたい。

### ② うなぎを活用した、勝手巻きの開発～第5回 高校生うなぎ料理コンテスト～

\*総合学科3年、\*\*家庭科

#### 1 背景・目的

系列における2年間の学びの集大成として、毎年開催されている、高校生うなぎ料理コンテストに応募した。

#### 2 コンテストのテーマ・ルール

① テーマ:「イベント・フェスで食べたい」浜名湖(浜松)の郷土料理「勝手巻」の創作料理

② ルール:必須使用食材→うなぎ・浜名湖のりを含んだ海苔・飯 材料費は、4人分で1,000円以下

#### 3 応募レシピ

レシピ名:こいの優勝巻き、対象イベント:こどもの日

特徴:こいのぼりを模した勝手巻きを考案した。鰹出汁で炊いた香り高い飯に、うなぎ・ほうれん草・しらす・白ごま・出汁をとった鰹節の甘辛煮を混ぜ込むことで、栄養バランスに配慮するとともに、子どもでも食べやすい味付けとした。

結果:12月に開催された高校生うなぎ料理コンテスト決勝では、惜しくも最優秀賞は逃したが、審査員から「一番おいしかった」との感想をいただいた。開発レシピのキッチンカーによる販売も手伝わせていただき、貴重な体験ができた。

福祉系列  
～施設実習で学んだこと～

\*総合学科3年福祉系列、\*\*福祉科

1 背景・目的

座学や校内実習だけでは学べないことを施設実習で学び、資格取得(介護職員初任者研修)及び資格所有者として、介護に関わる者としての心づもりや配慮等について身につけていく。

2 材料及び方法

外部(施設)での実習を行い、介護従事者の方の業務等を把握したり、利用者の方とのコミュニケーションを図ったりし、働く者、利用する者のそれぞれの立場での役割等について学ぶ。

3 結果・考察

実習の振り返りを行うことによって、個人で立てた目標の達成度合いを把握することができた。

その上で、何が足りないのか、何が重要であり、施設においては何が必要なのかを理解することにつながった。校内学習だけの学びでは得られない経験は普段の学習をより深めることにもつながるため、外部での実習の意義を感じることができた。

## 【発表の部】有志団体 ⑫天竜ラボ

世界の向こうへさあ行くよ New World 新時代はこの未来だ  
ーわたしたちのウェルビーイングをつくりあうためにー

\*天竜ラボ3年、\*\*地域連携推進センター

### 1.現状と探究のテーマ

天竜高等学校のある浜松市天竜区には自然が多い、住民が親切で優しいという評価がある一方、課題としては、少子高齢化や人口減少といった深刻な課題を抱えている。具体的には、次の通り。

(1)少子高齢化の加速 (2) 集落機能の低下 (3)産業の衰退 (4)人口減少によるサービスの縮小

浜松市では、ウェルビーイング調査を行い、市民の幸福度を測定している。その調査によれば、都市部よりも中山間地域の方が、幸福度が高いことが明らかになっている。

本論では、高校生の幸福度と地域性にどのような関係があるのかを明らかにしたい。

### 2.浜松市 well-being 調査と三遠南信地域 well-being 調査の方法

#### 【浜松市】

- ・「RESAS - 地域経済分析システム」
- ・浜松市「総合計画次期基本計画に係る市民意識調査(アンケート)結果報告書.pdf」
- ・浜松市デジタル・スマートシティ推進課「地域幸福度(Well-Being)指標活用に向けて」
- ・デジタル庁「地域幸福度(Well-Being) 指標」

#### 【三遠南信地域】

- ・三遠南信地域の高校 8 校に google フォームを使ったインターネットでのアンケート調査を実施。

(アンケート項目は、地域幸福度(Well-Being)指標を参考。)

【協力校】愛知県新城有教館高校、新城有教館高校作手校舎、田口高校

長野県阿南高校、下伊那農業高校

静岡県立浜松湖北高校佐久間分校、天竜高校春野校舎、天竜高校二俣校舎

### 3.結論

幸福度と地域性には、人の親切さや地域との結びつきに高校生は相関が強く出た。一方、高校生だからこそ、自身のキャリアや進路によって、地域を離れてしまうという現実もデータとして知ることができた。

## 修験道と秋葉信仰

\*森林・環境科 1 年(11HR)、\*\*11HR 担任

### 1 背景・目的

9月に行った「大峯山入峰修行」について担任の先生に話したところ1月の学習発表会のお誘いもらった。日本古来からの山岳信仰に仏教や神道などが習合した教えを下に修行する「修験道」と全国的に有名な秋葉信仰と修験道の関係を理解し、地元について知る事を目的として講義を行う。

### 2 方法

お世話になっている当山派修験道寺院の住職・副住職のお話を受けたり、古文書を読んだりする。

### 3 結果・考察

その寺院は、明治時代に起こった「神仏分離令」によって一時廃寺となり、古文書がかなり焼失したため、残っている古文書のほとんどは公開できない内容となっていた。そのため、京都大学の資料アーカイブにある「御大峯山入峰行列記」の1部や「修験心鑑書」を使うことにした。更にその寺院には、江戸時代に盛んに行われた入峰行列で使う看板が残っている。その看板には、菊の紋章が描かれているため、国家安泰を願った天皇や武将のために修行していたことがわかった。

秋葉信仰は、江戸時代中期に爆発的に民衆に広まった。その理由として考えられるのが2つある。1つ目は、1685年から始まった「秋葉祭り」で行われた秋葉の神輿を巡航するのが流行となったこと。2つ目は、江戸時代に江戸などで火災が多発したため、火防を祈願する民衆が秋葉山に参拝することが大流行したこと。この2つが、秋葉信仰が江戸中期に爆発的に広まった理由だと考えた。

## 「韓国とタイの研修から得たこと」

\*総合学科 35HR、\*\*35HR 担任

### 1 背景及び目的

中学生の時から、海外の文化や海外の人とのコミュニケーションに興味があった。高校に入学したら、高校生のうちに自分で海外に行って、高校生の時にしかできない体験をしたいと考えるようになった。そのため、日ごろから学校で紹介される様々な事業やイベントなどに気を付けて見るようにして機会を探した。教室に掲示された静岡県が行う国際交流事業に参加したいと思い、先生に相談して令和5年度、令和6年度に応募し、タイ、韓国の研修に参加した。

### 2 材料及び方法

令和5年度には静岡県が行う「海外インターンシップ」、令和6年度には静岡県が行う「韓国・忠清南道高校生派遣事業」に応募した。

#### (1)タイ研修

インドとタイの研修があったが、タイの文化に関心があり、タイの食事も好きのため、タイに応募した。2回の事前研修を受け、10人の県内高校生とともに4日間、タイに滞在した。現地では、静岡の企業がタイで活躍していることも学んだ。

#### (2)韓国研修

ダンスを習っており、K-popに関心があること、韓国の食文化が大好きで伝統的な文化にも興味があることから韓国に関心を持っていた。そして何より、地元の人、特に高校生との寮生活や合同レッスンなどを通して交流できることが魅力で研修に応募した。書類審査や面接など2回の審査を経て200人の応募者の中から選ばれた。静岡市で2回の事前研修を受け、10人の県内高校生とともに5日間韓国に滞在した。また、多くの人と交流し、伝統的な遊びや市場なども体験した。

### 3 結果及び考察

大人になって海外に行くと観光がメインになるが、高校生の時に、同世代の海外の人と交流したり、自分の目で見て体験したりすることは貴重な機会だった。自分が積極的に動くことで、言葉や文化が違ってても理解できる、理解してもらえることを、身をもって経験した。高校生は、チャンスを探して自分で動くことでやりたいことを叶え、自分の世界を広げることができると考えられた。

## 旧田代家プロデュース計画

\*旧田代家プロデュース計画チーム、\*\*地歴公民科(歴史)

### 1 背景・目的

平成 27 年に出された、浜松市中山間地域振興計画の重点方針「地域をプロモーションする」主要政策のうち「歴史的・文化的遺産を活用した地域づくり」の一環として、高校生による「旧田代家プロデュース活動」を計画・実践することで、地域の歴史や文化を地域活性化にいかし、まちづくり計画の策定に参画することで地域振興のモデルを描いていきたい。今回は、「旧田代家プロデュース計画により、地域の文化財を活用した「にぎわい」や「誘客」を引き起こすことができるか？」を目的とする。

### 2 材料及び方法

#### ① 旧田代家住宅を活用するイベントの企画・実施する。

天竜区まちづくり推進課・静岡文化芸術大学が主催する旧田代家住宅を活用するイベントに協力して、その成果と課題を共有する。

#### ② 地域の方々と協力し、旧田代家への誘客方法を提案する。

②-1 旧田代家の所在地をアピールするあたらしい看板の制作

②-2 地元商店と協力し、旧田代家をイメージした新しい商品の開発

②-3 旧田代家を訪れるスタンプラリーの企画

### 3 結果・考察

「旧田代家プロデュース計画により、地域の文化財を活用した「にぎわい」や「誘客」を引き起こすことができるか？」という私たちの探究活動のゴールに向かって、少しずつ動きがでてきた。私たちの探究の成果をとおして、多くの人に地域の魅力に気づいてほしい。

嘯月橋の復興に向けた防災と地域づくりの提案  
～カードゲームによる市民参加型ワークショップの構築～

\*総合学科1年 防災地理部、\*\*工業科(建築)

## 1 背景・目的

防災地理部は、東京大学や愛媛大学と連携し、都市計画や防災・復興を学ぶ場です。総合学科の探求学習の一環で、希望者が参加します。私たちはその募集を知り、地域課題に興味があったため参加を希望しました。

活動として、天竜区での街歩き、東北被災地視察、そして橋やカードゲームに関する事例調査を行い、12月の復興デザイン会議にて発表し、地域防災の課題や復興の在り方を学びました。特に2022年の台風15号で流失した嘯月橋に着目し、その再建を通じた地域づくりを探求しています。

## 2 材料及び方法

本研究では、以下の3つの調査を実施しました。

- ① 天竜区の街歩き 天竜区のクローバー通り、壬生ホール、天竜二俣駅、二俣川を訪問し、地域の現状と課題を確認しました。特に二俣川の自然資源としての重要性和災害リスクについて深く考察しました。
- ② 東北視察 東日本大震災の被災地を訪問し、宮城県雄勝町や岩手県花巻辺での復興事例を学びました。大規模な防潮堤や自然共生型の取り組みを比較し、地域特性に応じた復興の多様性を理解しました。また、南三陸町の中橋を通じて、橋が復興の象徴となる役割について考察しました。
- ③ 事例調査 橋に関する設計やデザイン事例、また市民参加型ワークショップに活用されるカードゲームの事例を収集しました。これにより、橋の再建における住民の意見反映や、学びを深める方法を研究しました。

## 3 考察・提案

私たちは、嘯月橋の再建に向けた市民参加型ワークショップで活用できるカードゲームを提案します。このゲームは、橋のデザインや防災機能に関するテーマをカード形式で提示し、参加者が楽しみながら具体的なアイデアを出し合える仕組みです。ゲームを通じて、住民が協力しながら橋の再建案を共有し、共通認識を深めることを目指します。

## 4 今後の展望

今後は、カードゲームを実際に制作し、ワークショップを具体化していきます。ワークショップの体験会などのプロセスを通じて、地域全体の防災力を高め、災害に強いまちづくりを進めることを目標としています。さらに、東北視察で学んだ「地域特性を活かした復興」の視点を取り入れ、嘯月橋が地域のシンボルとなるような再建計画を提案していきます。

## 【展示の部】

### 地元材を用いたスツールの制作 ～授業「林産物利用」での学びについて～

\*森林科学類型2年、\*\*農業科(森林科学・木材加工)

#### 1 背景・目的

地元で産出されるスギ材は伐採適期を迎え、その活用法が課題となっている。そこで私たちは、実用的かつ本校の木材加工機械で容易に製作可能なスツールに注目し、その制作方法の確立を目的とした。

#### 2 材料及び方法

材料は、天竜で産出されたスギ材とした。スギ材を図面に沿って加工し、組み立てた。組み立てる際は、必要に応じてビス(カインズ社、45mm)および、木工用接着剤(コニシ社)を用いた。また脚部には、相欠け継ぎを採用し、強度を持たせ工夫した。

#### 3 結果・考察

制作の結果、地元産のスギを使ってスツールを制作することができた。

座面を加工する際、保有する材の幅が足らなかった為、木工用接着剤を用いて「いも接ぎ」することによって幅を確保できた。制作過程で、スギ材表面への汚れが心配されたため、ウレタン塗料(和信ペイント株式会社)を塗布した。その結果、汚れに強くなり手入れがしやすくなり、木目も強調されたと考えられた。



～天に竜在り 地に竜在り～

静岡県立天竜高等学校